平成２８年度　多機能型事業所　童里夢　事業報告書

≪平成２８年度の経過と評価≫

平成２８年度は、多機能型事業所　童里夢内での管理者交代等の人事異動があり、業務内容及び、職員体制の整理が課題であった。現状、業務内容及び職員体制の整理については、十分な取り組みができておらず、継続課題であり、平成３０年度以降の継続的、安定的な運営体制の構築が求められる。

一昨年、障害者虐待防止法、差別禁止法等が施行され、事業所職員の対応等に厳しい目が注がれる状況の中、事業所全体の問題として、職員一人一人への意識化、専門職としての倫理、知識、スキルの向上を求め、職員研修、毎月のセルフチェック、家族相談日の設定、利用者ミーティングの実施を実施した。現状も業務に追われ余裕がなくなり、対応、細かな配慮が不足してしまうことも見受けられ、今後も最重要課題として、支援力の向上、標準化への取り組みを行ない、社会福祉法人、福祉施設としての責務を果たすことが必要である。

【ばくばくぱん】では、年度初旬にパン職人職員を確保できたこともあり、休業していた火曜日の店舗営業と毎週金曜日に実施している有機朝市の販売を再開した。地元小学生の体験見学の機会をいただいたことから、小学生の来店が増え、地元小学生をターゲットにしたキッズカードや駄菓子の販売を行う。継続的な来店客の確保には繋がらないが、少しずつ課題に対する取り組みも見られる。年度末には、職員の療養休暇の関係により、作業班体制の維持が困難であったが、雑貨班職員による配達・販売の協力を得て、休業することなく継続して営業することができた。次年度には、新規利用者２名が利用開始し、８名の利用者の支援体制を整えることが必要であり、生産活動の拡大及び工賃の向上を踏まえた収益の確保が求められる。

【雑貨班】の生産活動は、委託作業、木工作業を中心におこない、作業班利用者の方の人数、障害特性を踏まえ、業務の整理が課題であった。一方、クラブ活動等諸活動では、雑貨班職員が主導で行っており、また、日々の利用者送迎、給食の運搬、そして、年度末のパン配達・販売等のパン班への協力体制により、生産活動以外の事業所内での貢献も大きい。生産活動では、今後諸経費＋工賃の確保が出来る生産活動の設定、利用者が過ごしやすい環境設定、及び、利用者が関われる作業種目の拡大、選別が求められる。

【レストラン班】は、昨年度末、職員の退職により、３人の職員体制の中、店舗運営を中心に惣菜、お弁当の販売、法人内事業所の給食の提供を行なう。また、年度途中より、新規利用者２名の受入れ、７名の利用者への支援を行なう。弁当受注は永年の口コミから拡がり、好評を得ていたものの、製造、配達での職員に掛かる負担が大きく、弁当の配達は休業をする決断をし、お客様へのご理解をいただく。店舗は一定の来客者数を維持しており、料理に対する評判もよくリピーターも多い。給食は童里夢、奏楽の分を賄っており、利用者数の増加に対しても、継続的に安定して提供することができており、利用者、家族の方々にも好評を得られている。今後、職員体制の構築と共に、給食の提供の継続、食数の増加に対する懸案事項もあるが、来年度、給食提供への負担軽減について対策に当たる。ジャズ演奏等のイベント、ギャラリースペースを活用した企画展、ツイッターを用いた情報発信等、来客者数を増やす取り組みを継続する。

【Pan-Kan 製造センター】は、昨年４月の熊本地震の影響、また、他社製品の値上げも重なり受注が増加し、年度末まで例年以上の注文対応が求められた。年度初旬より、製造工程、製造時間の短縮を図り、また、製造数増加に伴う備品購入を行ない、製造への負担感の軽減を図ることができ、年度末の繁忙期での受注に答えることができた。売上の増加に伴い、利用者工賃の見直しを今年度も年度末特別工賃の支給もできた。来年度以降も継続した売上げの確保が目標であり、品質の維持・向上をより求めていきたい。

≪重点課題に対する取り組み≫

１．利用者支援の全面的点検

平成２７年度から引き続き、重点課題として、利用者支援の全面点検、専門職としての力量養成を掲げ、各委員会の組織づくり、研修への参加等を通して、各業務、職責、サービスの質について点検を行なう。不適切対応・支援の対応として、支援力の向上は法人全体で取り組む重点課題として、平成２９年度も継続課題とする。

年間開所日を２５３日から追加で６日間設け、活動を企画し提供する。６日間の活動日への参加希望者が多く、利用者にとっては活動の機会や幅が拡がり、また、普段、生産活動が中心な就労継続 B 型の利用者の方達も参加することができ好評を得ることができた。一方、企画によっては人数制限を設けたこと、大人数での企画による個別ニーズへの対応が困難であること、送迎の有無による利用制限、対応職員の調整、準備等の担当職員への負担が大きい等の問題もあった。来年度は、小グループ活動として、利用者１人に付き、年間２回設定を実施することを計画する。企画に関しても利用者自治会を通じて、小グループごとでの話し合いを行ない企画する。

利用者送迎ニーズの高まりから、平成２８年７月より送迎の充実を図り、従来のマイクロバスルートを再編、５ルートを追加構成し実施する。利用者、家族とも利用に伴う負担感の軽減に繋がり、また、地域生活支援センターすたぁとの短期入所利用の送迎も合同で行い、事業所間の連携も深まった。

２．生産活動、及び諸活動の点検・見直し

生産活動は、生産活動種目、職員体制、利用者の障害特性を考慮し、生産活動と利用者支援のバランスを図りながら実施する必要があり、自主製品の売上金額は減少、利益の確保が厳しい状況が続いている。生活介護における生産活動では、社会情勢の関係で原材料を始め諸経費の高騰が見られるが、諸経費に対する意識化、管理が不足しており、今後の課題として、生産活動における諸経費の按分比率の見直しを行ない諸経費に対する意識化を図ることをすすめる。また、利用者増員に伴う工賃支給額の増加が必要であり、利益率の向上、生産活動工程の見直し、細分化、マッチングも求められ、来年度の課題と言える。また、売上向上に向けての営業活動についても継続検討が必要である。

就労継続支援Ｂ型は、繁忙期を想定しての行程の見直し、業務の効率を図り、年度末は継続して、１日に 1,000 缶以上の製造体制を継続することができた。今後も、商品の品質管理に注力し支援環境を整えながら、工賃の増額と共に、一般就労向けた支援も継続する。

３．環境点検、環境整備、建物・備品機器類の点検

改修工事として、2階屋外バルコニーの防水塗装、笠木の板金加工、１階パン作業場の床面塗装、及び２階厨房の床面塗装等の工事を行なった。また、送迎利用の際、使用頻度増加したハイエースの修繕が当初予定から追加することになった。今後、生産活動に関わる機器類も開所当時から使用しているものもあり、空調機等の取替工事も予想されるため、予算措置と計画的な工事の実施を次年度以降も見込んでいる。

４．福祉サービス専門職としての力量養成（対人支援の観点）

一昨年度、不適切対応・支援の指摘を受け、職場全体で福祉サービス専門職としての在り方を見直しとしての取り組みも、即効性は乏しく、今後も継続課題として、人材育成の方向性を出し、福祉専門職としての資質、意識を養い高めるしくみをつくる必要がある。また、平成30年度に向けた職員体制の検討にあわせ、ジョブローテーションを行ない、人員配置の検討と共に作業班間の理解を深める。

５．業務計画、職員研修の計画的実施

研修の積極的参加を検討するが、職員体制上、外部研修参加が困難な職員も多く、計画的な実施が出来なかった。今後も職員体制の構築と共に研修計画の見直しを行なう必要がある。法人全体研修では特に課題である権利擁護、虐待防止について学ぶ機会を作る。権利擁護については、今後も法人全体研修を始め、職員会議、支援会議を通し、継続して学習することが必要だと言える。法人運営においても、人材育成は、事業運営の継続、拡大において、重要課題であり、キャリアパスを踏まえた人材育成プログラムの構築が求められる。

《 地域活動：事業所の社会化 》

福祉体験学習・ボランティ体験学習・職場体験学習等 受入日／人数					
受入日	学校名	人数	受入日	学校名	人数
11／8～10	東稜中学校	1	11／17	青陵中学校	2
12／7	東稜中学校	2	12／13・14	南稜中学校	2
特別支援学校等現場実習 受入日／人数					
6／7～10	豊川特別支援学校	1	6／21～24	くすのき 特別支援学校	1

社会福祉援助技術実習／その他研修等 受入日／人数					
9月・10月 24日間	日本福祉大学	1			

中堅教員（１１年目）研修・社会貢献型研修 受入日／人数					
7／20・21	二川中学校	1			

日中一時支援事業 人数												
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
人数	1	1	1	4	6	4	2	3	3	1	3	5
延べ	3	3	4	7	15	6	4	6	7	3	5	10
年間延べ人数：７３人												

《 事業所外生活支援：自立（律）生活訓練（宿泊体験）の連絡・調整 》

自立（律）生活訓練（宿泊体験） 人数												
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
延べ人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
年間延べ人数：０人												

《 防災計画・安全管理：防災訓練 》

防災訓練・学習 実施日			
5/7	防災学習	10/29	地震想定引取り訓練 ※家族対応訓練
7/30	避難訓練（火災想定）	3/18	防災学習

《 職員研修 》

月	内容	対象者
5月	障害福祉職員初級研修	生活支援員
6月	「事業運営について」 全国知的障害関係施設長等会議 経営コンサルタント研修	法人全体研修 管理者 中堅職員
7月	東三セルプ事務員研修 成年後見実務研修	事務員 管理者
8月	権利擁護セミナー※計３日間	生活支援員
9月	東海地区施設長等会議 東三セルプ療育研修（インシデントプロセス法） 経営コンサルタント研修 上半期事業運営振り返り 「障害者の権利擁護について」（豊橋総合相談支援センター）	管理者 生活支援員 中堅職員 法人全体研修
１０月	BCPセミナー 人材確保セミナー 食品衛生講習会	管理者 管理者 生活支援員
１１月	助成金セミナー 職場環境改善研修 就労規則セミナー 東三セルプ事務員研修 経営コンサルタント研修	管理者 管理者 管理者 事務員 中堅職員
１２月	社会福祉施設長セミナー サービス管理責任者研修 東三セルプサービス管理責任者研修 「アンガ･マネジメント」	管理者 支援員 支援員 全体研修
1月	福祉協会管理者セミナー	管理者
2月	愛知県知的障害関係施設職員研究大会 東三セルプ合同研修会 事務手続き研修会	生活支援員 生活支援員 事務員
3月	「ＢＣ事業継続」	法人全体研修

《 売上金額：生活介護 》

月	れすとらんくう 売上金額（円）	ばくばくぱん 売上金額（円）	雑貨班 売上金額（円）	計（円）
4	687,250	502,714	201,211	1,391,175
5	371.860	444,003	95,030	910,893
6	548,120	542,865	112,034	1,203,019
7	537,306	605,000	108,445	1,250,751
8	489,225	464,354	101,474	1,055,053
9	567,720	521,313	103,342	1,192,375
１０	656,220	513,797	94,164	1,264,181
１１	587,930	572,044	76,485	1,236,459
１２	447,920	909,583	66,490	1,423,993
1	507,970	431,432	58,304	997,706
2	569,170	506,115	62,938	1,138,223
3	596,650	639,410	135,088	1,371,148
計	6,567,341	6,652,630	1,215,005	14,434,976

《 原材料費／原材料費率 》

計	3,482,397	2,249,724	126,995	5,859,116
比率	53%	34%	10%	41%

《 平成２７年度売上金額 》

計	9,782,170	6,989,265	1,534,991	18,306,426

《 売上金額：就労支援Ｂ型 》

月	売上金額（円）
4	2,767,987
5	3,014,536
6	3,755,118
7	5,191,178
8	4,702,627
9	4,994,930
１０	4,179,226
１１	3,642,039
１２	2,430,164
1	6,691,993
2	6,492,604
3	8,767,313
計	56,629,715

《 原材料費／原材料費率 》

計	22,661,578
比率	40%

《 平成２７年度 売上金額 》

計	39,243,481

多機能型事業所 童 里 夢　平成２８年度利用者状況　　29. 3.31 現在

【障害支援区分別人数】

生活介護

性別	区分６	区分５	区分４	区分３	区分２	区分１	非該当	合計
男性	3	4	6	0	―	―	―	１３
女性	4	6	4	2	―	―	―	１６
合計	7	１０	１０	2	0	0	0	２９

就労継続支援Ｂ型

性別	区分６	区分５	区分４	区分３	区分２	区分１	非該当	合計
男性	0	1	3	4	0	0	0	8
女性	0	0	1	1	2	0	1	5
合計	0	1	4	5	2	0	1	１３

【年齢別人数】

生活介護

性別	２０歳未満	20-25	26-29	30-39	40-49	50-59	合　計
男性	0	5	0	3	5	0	１３
女性	2	1	1	7	5	0	１６
合計	2	6	1	１０	１０	0	２９

性別	平均年齢	最低年齢	最高年齢
男性	３３．１	２１	４６
女性	３５．２	１８	４９

就労継続支援Ｂ型

性別	２０歳未満	20-25	26-29	30-39	40-49	50-59	合　計
男性	0	3	1	2	1	1	8
女性	0	4	0	1	0	0	5
合計	0	7	1	3	1	1	１３

性別	平均年齢	最低年齢	最高年齢
男性	３２．８	２３	５９
女性	２３．６	２１	３４